

## 中国における非主流金融の拡大と中小企業

麗澤大学 陳 玉雄

中国の中小企業は、証券市場・金融機関とのミスマッチで資金難問題が発生している。証券市場は、最初から国有企業の資金調達のために創設された。また、国有銀行を中心とする間接金融機関は、証券市場と同様に歴史的に国有企業に重点を置く一方、融資に際して財務情報や担保を求める。

一方、中小企業は、諸外国以上に財務情報の整備や担保が不足しており、金融機関や証券市場からの資金調達が難しい。その結果、ほとんどの中小企業は、これまでインフォーマル金融に依存せざるを得なかった。

この中、近年インフォーマル金融の「フォーマル金融に対する補充的な役割」（中国人民銀行の報告書）が認識され、中小企業金融の解決策としてインフォーマル金融のフォーマル化が提案されている。この流れに乗って、一部のインフォーマルな金融業者は、取締りリスクを低減するため信用保証会社、小口貸出会社などのフォーマルな金融機関を設立した。一方、銀行は委託融資、手形融資及び信託融資などの形で資金のオフバランスをし、ある意味でインフォーマル的な資金の流れを作った。

このように、フォーマル金融とインフォーマル金融の相互参入・融合の実態が進行している。とりわけ、フォーマル化されたインフォーマル金融は中小企業への積極的な役割が期待されている。実際にも、新設された小口貸出会社などの融資額が急増している。しかし、これらの融資は既存のインフォーマル金融による融資の表面化の側面もある。また、フォーマル化するだけでは、本来インフォーマル金融が持っていた情報面、コスト面における優位性と需要へのフレキシブルな対応の能力が喪失する可能性がある。インフォーマル金融のフォーマル化だけでは、中小企業の資金難問題は解決されない。多様な企業構成に対応した、重層的な金融構造が求められる。